

## 第11回サイエンスカフェ参加者からの質問に対する 藤原先生からの回答

(当日、グループディスカッションの際出た質問の中から、時間の都合でお答えできなかった質問についてお答えします。)

Q1) 土地のない都市部で木を増やすにはどうすればいいのでしょうか。屋上緑化しかないのでしょうか。

A1) 土地がないと思い込んでいるだけです。

学校や病院、工場の周りを見渡すと、最低幅1mの空き地でぐるりと囲まれる空き地があります。そこで生け垣かわりの森を作れます。コーナー(角部)は広くとれますから三角に植栽できます。幅が狭くても、自然に近い森を再生したら、命を守ってくれます。



Q2) 発展途上国でNPOなどが木を植えても、日本のようにエネルギー(ガスや電気)が容易に使えなければ、現地の人たちは火を使うためにある程度育った木を伐って炭にししまい、たちごっこになってしまうと思うのですが。

A2) 私は里山システムを提唱しています(7月4日のNHK「海外JAPAN」の番組で先日私がインタビューされた「粘土団子」でケニアに緑を」の話が放送されました。ラジオでの放送後、1週間インターネットでも配信されます。ウェブサイト <http://www.nhk.or.jp/nhkworld> にアクセスして、英語放送の場合、「Radio Programs」をクリックしてください。What's Up Japan の Listen ボタンをクリックして Friday をクリックすると自動的に音声流れます。なお、前もってリアルプレーヤなどの音声ソフト(無料タイプ)のダウンロードが必要です。)

皆が使える(薪などの燃料や材など)森と、鎮守の森のような、子孫に伝え残す為の森を組み合わせることが大事です。貧しい国では、木があれば伐りますから、うまく生活に使う、自然と共生できる里山の林を自然林再生の周縁部につくり、それを上手に使ってもらいます。使う面積、植林して、間引いて使う、あるいは枝払いして使ってもらい、中心部の自然には手をつけないことを地域の人々にわかってもらう必要があります。これが教育であり、重要なことです。



Q 3) 先生は植栽をすれば良いとおっしゃいますが、現実には経済開発で道路などを造るために森林が切り開かれています。その折り合いをどうつけているのですか。

A 3) 日本では環境アセスメントがあり、むやみやたらに木を切ることができません。また現代のリーダーになる方々は、どこが大事かわかっていらっしゃいます。



Q 4) 植林するときに、「密に植えるとよい」と話されましたが、どうして密に植えると良いのですか。

A 4) 密に植栽することで、木は光を得ようとして競争して上に伸びます。近くに植物がない場合は上に伸びず、幹を太くするだけで伸長しません。これを密植効果と呼びます。



Q 5) 緑を増やす運動の情報が、市民にはなかなか伝わってきません。どういう場所から、そういう活動の情報が発信されているのでしょうか。



A 5) やはりインターネットなどを使って情報を得るのが、もっとも早いですね。幸なことに、毎日新聞社の「マイマイツリー キャンペーン」では、植林情報を流しています。

(<https://my-mai.mainichi.co.jp/mymai/modules/ueru16/>)

Q 6) 政府主導の大々的な活動ではなくて、今すぐに、一人でもできるような、そういう簡単なことはないでしょうか？

A 6) 自分の家の庭のコーナーでもできます。でもそれより、可能な場所を皆で探して、自然を再生しましょう。現在自然林再生活動をしている方々の多くは、NPOの方々や一般の方々の集まりです。自分たちの力で何かしたいという方々が集まり、可能なスペースを見つけては植林活動を行っています。政府主導は少ない位です。一人でもできますが、皆で参加した方が楽しいですよ！

森林という字は5本の木から成り立っています。ヒトも大勢で自然を再生すれば、より多くの木を植栽できます。多くの問題も話し合えますし、意義も話し合えます。

仲間を見つけて一緒に行動し、輪を広げて下さい。

